

## デジタル週案（教育経営簿）Ver.2.6m 簡易マニュアル

### 1. デジタル週案(Ver.2.6m)の特徴

朝の学習のようなショートタイムプログラムも教育課程内の指導時数としてカウントしたり、1コマの中に時間を区切って2教科を実施したりする場合も増えてきました。このような場合の集計は大変煩雑でしたが、本デジタル週案によって簡単に集計できるようになりました。このシステムでは、2時間（コマ）を60分と30分に分けるような弾力的運用も集計可能です。

### 2. シート「週案」の設計

1週間分のサンプルが準備してあります。その学校に合わせて、形式を修正して下さい、但し、時数集計はD～L列が対象です。この9コマ分を各時間やショートタイムプログラムに割り当て下さい。2行目の項目名は変更可能です。各列幅も変更可能ですが、印刷範囲に収まるように注意して下さい。例えば、D列の朝の活動を行わない学校は非表示にして下さい。同様に、G列、J列も非表示にしてもかまいません、業間や昼の活動がある場合や、7時間目がある学校はそのように変更するとよいでしょう。

### 3. シート「設定」

このデジタル週案データは1年分の処理ができます。年度・1学期の開始日・最終学期の終了日を西暦で入力します。

1コマが何分かを定義します。

通常、小学校は45分、中学校は50分です。

「空白週案の作成」ボタンを押すと、1年分の空白週案が、シート「週案」に自動作成されます。日付もその年度のものが自動入力されます。

### 4. シート「週案」

- セルD～L列の上の行には、教科名を入力します。教科名等は、シート「集計」の3行目に使う文字を使って下さい。例えば、シート「集計」で「国」と定義すれば、「国」が集計されます。

- 教科名の後に実施時間数(分)を付けると、分単位での端数計算ができます。付加できる数値は分単位で1～99です。100分以上の活動は2コマに分けて入力します。

この機能は、ショートタイムプログラム等に単独で使うこともできますが、1コマの中で2教科の実施するような場合も使えます。この場合、スペースで区切って下さい。区切りのスペースは半角/全角どちらでもよく、1つ以上必要です。1コマに3教科入れることも可能です。

入力例	集 計
算数	算数を1時間（コマ）指導した場合
算数 15	算数を15分指導した場合
行事 15 理科 30	行事を15分と理科を30分指導した場合
行事 70	行事を70分指導した場合
国語 99	国語を99分指導した場合
国語 100	100分とは解釈されず、国語10分と同じになる

- 日曜参観等、土日が授業日になる場合は、振替休業日の日にデータを入力して下さい。この場合、A列に年月日データを入力してください。集計されません。

### 5. 移動と印刷

- Ctrl+Z で、移動印刷メニューが開きます。（MS-IMEは半角直接入力の状態です）
- 上のテキストボックスに月日を入れ、「画面移動」を押すと、その日に移動します。
- 下のテキストボックスに月日を入れ、「印刷」を押すと、その日を含む週を印刷します。
- 移動&印刷メニューを使って印刷すれば、A列は印刷されません。

### 6. シート「集計」

- このシートには何も入力する必要がありません。シートを開く度、再計算されます。
- 集計値は「時:分」で表示されます。例えば「12:35」は、12時間（コマ）と35分を表し、12.35時間ではありません。